

# [月刊] En-ichi

2

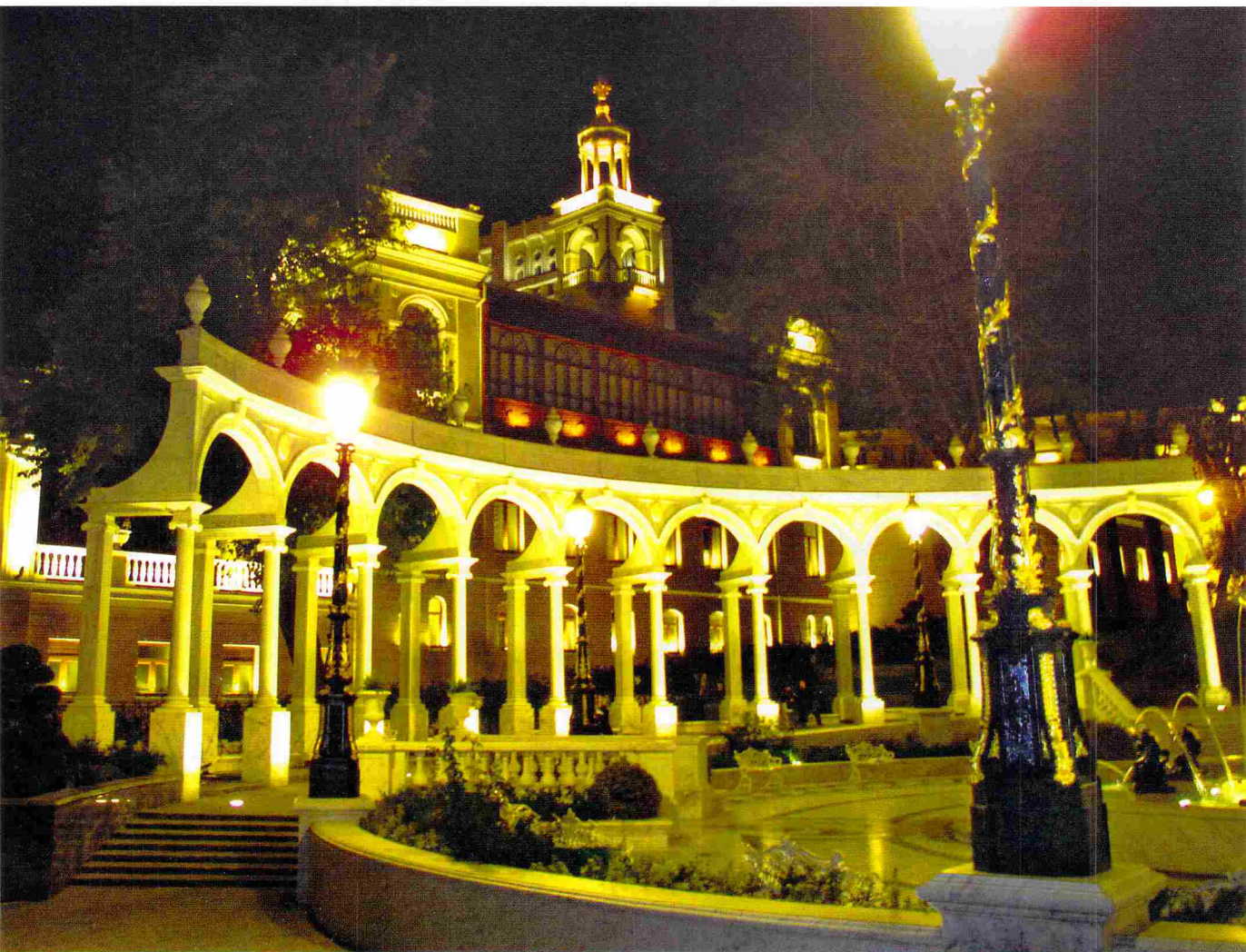
no.249

## 魂の教育を実践する

インタビュー

### 「真の人材教育」のビジョンを提案する

東洋大学教授 西川吉光



日本の家庭を守る教育情報誌

今月の  
焦点

日本が国際的に開かれた海洋国家になったとします。それでも…この国はなお脆いと思うのです。なぜなら日本人が抱えている精神や内面の問題…分かりやすく言えば「宗教がない」ことへの危惧です。

「真の人材教育」のビジョンを提案する 西川吉光…6

不況から脱し再生に成功したオランダでは、国民の過半数が人生の中心を「仕事よりも幸せな家庭生活を送ること」に置いている。…家族政策は、国民の大多数の要求を如実に反映している。

家族を守るオランダモデル…10

夫婦において守るべきルールは一つだけと言っても過言ではありません。それは「愛において裏切らない」…異性問題を起こさないこと、すなわち、浮気や不倫をしないということです。

円満な夫婦関係が幸福の基盤…14

二〇一五年までの貧困克服の努力目標（国連の「ミレニアム開発目標（MDG）」を、最も達成不能と見られているのがアフリカ大陸だ。…政治家達が、むしろ状況を悪化させている。

政局が悪くするアフリカの人権状況…17

## 3 巻頭言

「茶の間」からの教育再生

教育評論家 棚橋嘉勝

## 4 教育再生への課題と展望

「宗教なき国際国家」では国として脆い

「真の人材教育」のビジョンを提案する 東洋大学教授 西川吉光

## 10 ワールドアフェアーズ

「幸福の原点は家庭」家族を守るオランダモデル

## 12 情報ファイル

減少続く日本人の海外留学

全国体力テスト、学力と体力に相関関係

## 14 家庭学

円満な夫婦関係が幸福の基盤

## 16 「人権」から読む世界事情

政局が悪くするアフリカの人権状況

## 18 昭和は遠くなりけり

「生きる目標」と「仲間意識」を失った無縁社会 筑波大学名誉教授 鈴木博雄

## 20 子育ては絵本で大丈夫

「花咲爺」 劇団天童／天童芸術学校代表 浜島代志子

## 21 教育・家庭情報 米映画『トワイライト』10代の心つかんだ「家族」と「純潔」

## 22 Book Review

## 24 歴史と伝統の探訪

新島襄、「自責の杖」で示した教育者の心



教育評論家  
棚橋嘉勝

巻  
頭  
言



家庭は基本的に人間関係を築く場であり、人間として生きていく上での「心の教育」の大切な基盤になっています。しかし生活が豊かになる半面、家庭の大切さが見失われていることは重大な問題です。

かつてわが国では、家族制度の中で親から子へと自然に「心」が伝えられてきましたが、戦後、民法の改正によりその制度の良さまでがなくなり、祖先から子孫へと流れる中に自分がいられるという観念すらなくなりました。大家族が一つ屋根の下で暮らしていた頃は当たり前だった世代間の相互理解という美風も、失われようとしています。

核家族が一般的になり、親子関係が稀薄になり、家族の絆も弱くなつてしまいました。人々が互いの情的な絆を失い、「無縁社会」などと言われる今日の日本社会の病理は、根本には家庭の喪失があり、しかもそれが急速に広まっているわけです。

以前は、多くの家庭の「茶の間」で家族揃って卓袱台ちやぶたいを囲み、家族がその日の出来事や子どもの将来のことなどの会話を交わしながら、食事を楽しんだものです。

「茶の間」は家族が憩う場であり、子どもにとつては人生勉強のための重要な役割を持った「教室」でもありました。当然、家族の絆を深

## 「茶の間」からの教育再生

める場でもあったのです。その中で子どもたちは、優しさや思いやり、感謝と奉仕、礼節、善悪、あるいは正義と不正義の判断力、など人間の生き方として大切なものの全てを身につけたのです。

また、人間関係で嫌なことがあっても、「カッ」となって人の道を踏み誤ることなく、歯止めとなり「心」の支えともなったのです。

家庭は社会の縮図であり、家族は社会を支える小さな単位であり、社会的規範は本来、家庭において培われるものです。また、家庭は人間形成において大切な場です。他人の痛みや悲しみを自分の痛みや悲しみと感じたり、他人の人生を気遣う心を持たない、無責任、無節操、放縦、非道、不誠実、怠慢な若者たちを育てたのは、物質の充足の価値を中心とし、魂の充足を価値と見なさない親の価値観に、さらに隣人や社会への愛を失わせるような生き方を強いた人生哲学への不在に責任の一端があるのです。

精神的、情緒的な世界も、祖先、親から受けた愛情を出発点として育ってきたのだと考えた時、家族は自分の生存の基盤であり、そのためにも先達に対しての崇敬の念を忘れてはならないのです。そして、祖先からの「命」のつながりによって生かされている事実を、子どもに示すことが必要です。



「宗教なき国際国家」では国として脆い

# 「真の人材教育」の ビジョンを提案する

内向きで活力を失った日本。  
教育のビジョンを失った日本  
は次の世代の人材育成のため  
にどうすべきなのか。

「日本は国際国家」  
は錯覚だ

最近、「若者が内向きになった」と言われます。私もそれを実感しています。若者に限りませんが、冷戦後、世界がこれほど激しく動いているのに、外のことに全く関心を持つとしない、極めて特異な時代だと思えます。平安時代や江戸時代とも似ていますが、平安・江戸時代はそういう中でも独自の文化を築きあげました。現在はそうした内在的な活力さえ失っています。

そして最大の問題は、自分たちが内向きで閉鎖的であるということに彼らが気付いていないことです。

す。弊害は既に表れておりますが、このツケが二十年後、三十年後により深刻な影響を我が国に与えるであろうことを危惧しています。

なぜ日本人はこれほど内向きになったのでしょうか。様々な要因があるでしょうが、一つには「疑似国際化認識」が大きいと思えます。日本は経済大国になった、だから国際化しているはずだという

思い込みです。経済大国とは言っても、資源もマーケットも海外に大きく依存する「ひ弱な花」ではないのですが、ODAや国連分担金等金払いがよいための、御大臣の如く国際社会では一応上座に置かれることから、日本は一流の国際国家だという錯覚に陥っているのです。

国を閉ざしている  
ことは危険

奇妙に聞こえるかもしれませんが、今の日本よりもむしろ戦前の我が国の方がよほど国際化しているものです。当時の日本には、小樽や長崎など大陸や半島につなが

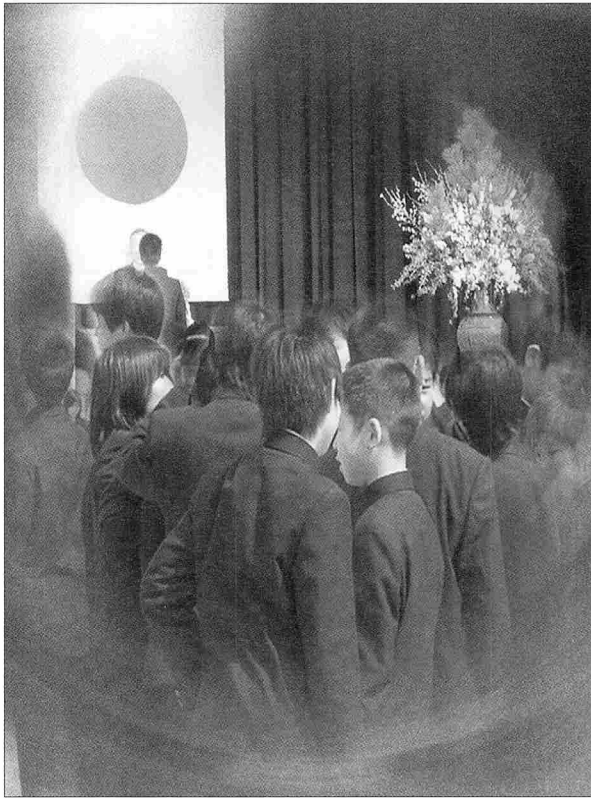


西川吉光

にしかわ・よしみつ

東洋大学教授

1955年大阪府生まれ。大阪大学法学部卒。防衛庁入庁。内閣安全保障会議参事官補、防衛庁長官官房企画官、防衛研究所研究室長等を経て、現職。法学博士(大阪大学)。専門は国際政治学、安全保障論。著書に「ポスト冷戦の国際政治と日本の国家戦略」「国際平和協力論」「日本の外交政策」「特攻と日本人の戦争」等多数。



日本は教育における新たなモデル  
 かビジョンを早急に見出さな  
 なければならない

る窓口が列島の各地に存在しまし  
 た。様々な文化が日本に入り、ま  
 たそこから多くの日本人も海外に  
 雄飛したものです。現在のように  
 東京だけが世界への窓口ではなく、  
 日本各地が直接海外と繋がって  
 いたわけです。

ところが、今はそうした地が列  
 島の端っこ、僻地のように扱われ、  
 その窓が閉ざされています。しか  
 も、経済や物流はともかく、人と  
 人の交流の窓口となると、現在の  
 日本は誠に御寒い限りです。これ

が先進国の空港かと情けなくなる  
 成田空港の現状を他の交易国家の  
 空港と比べても、日本の鎖国状況  
 がわかってしまうものです。チャ  
 ンギやスキポール、ヒースロー等  
 交易海洋国家として一時代を築い  
 た国や活発な経済活動を営む国々  
 の空港と比して、如何に成田が見  
 劣りするか、またその状況に危機  
 感すら持たない日本人の意識は絶  
 望的でさえあります。今の日本は  
 人と人、特に意識や精神面での外  
 界との繋がりは歴史上最も閉ざさ  
 れた状況に陥っているのではない  
 でしょうか。

私たちは、知らず知らずのうち  
 に国を閉ざしていることの危険性  
 に気付くべきです。戦前は、植民  
 地や委任統治領の保有、海外移民  
 などで、現在以上に日本人は外の  
 世界と接触していました。が、それ  
 でも我が国は国際社会から孤立し、  
 世界を敵に回した戦争で明治以来  
 の国富を失ったのです。独りよが  
 りで生きることの恐ろしさ、閉鎖  
 的な社会や国民の意識がどれだけ  
 大きな災禍を招くかという史訓を

しっかりと学びとらねば、視野狭  
 窄でガラパゴス化した若者が国家  
 の中堅、中樞を担う十年、二十年  
 後にそのツケは必ず出てきます。

外の世界に対する関心も憧れも  
 抱かず、世界中が日本の国内と同  
 じだろうと勝手に思い込んでいる  
 青年の意識も問題ですが、最近の  
 日本人には大志や野望がまったく  
 感じられません。日本人が志を失っ  
 た、つまり無気力になった一因に  
 は、貧困の消失、つまり豊かさの  
 裏返しとしてハングリー精神を失っ  
 たこともあるでしょうが、戦後教  
 育にも責任があります。

## 「一休み」は教育の 目標にはならない

近代日本の軌跡、それは西欧列  
 強にキヤッチアップする道程で、め  
 ざすべき「モデル」がありました。  
 日本にとってのモデル国家を見つ  
 け、そのモデルに近づけるように  
 官民挙げて努力しました。まさに  
 「坂の上の雲」を目指したわけです。  
 教育は国家の政策を反映するもの

# 日本は未だに戦後復興に代わるモデルもビジョンも見出していない

ですから、モデル国家を目指すという、教育の意義にもゴールにも明確なビジョンが存在していたのです。

しかし、高度経済成長が終わった後が問題でした。そこから先のモデルを日本は見つけることができなかつたのです。確かに豊かにはなりました。それで、ちょっと一休みで「ゆとり教育」だと。しかし、「一休みすること」は決して教育の目標や方針にはなり得ません。この時期、熟考して、新たな「坂」を探すのか、あるいは日本は日本なり、自分なりのビジョンを見出すのか、そのような営みがなされるべきであつたのです。自民党が力を持ち政局も安定しており、国力も国民の気力も満ちていた時にこうした課題に取り組みべきでした。それができなかつた最大の責任は「政治」にあります。それから既に四半世紀以上の時が流れましたが、日本は未だに戦後復興に代わるべきモデルもビジョンも見出し得ていないのです。どのような国となし、どのような日本人

となるべきか、核となる目標がなくては教育に魂は入りません。

悲観的で厳しい言い方ですが、草食系、一休み教育の世代、あるいはその次の世代まで、我が国の国力は落ち続けると思います。それは単に高齢化が進むといった人口構成だけの問題ではなく、目標も大志も覇気も、そしてやる気も学力も無い人たちに国を立て直すことはできないということです。

## 「海洋国家」に相応しい教育を考えるべき

ではどうするか。例えばイギリスという国は、戦後、国力（経済



核となるビジョンや目標がなくては教育に魂は入らない

力や軍事力など）のハード面は相対的に弱くなりましたが、豊富な海外との接触体験を踏まえて、情報力や交渉力ではいまでも極めて大きな力を持っています。ですから落ちる時も急速に落ちることはありません。緩やかな衰退の中に、なお他国が見真似るべき多くの輝きを放っているのです。そうした成熟国家の知恵に学ぶのも一つの方法でしょう。

私は、かねてから日本は「海洋国家」を目指すべきだと考えています。日本は海を介して世界の多くの国と直接交わることができません。国土が狭く天然資源にも恵まれないという限界を考えれば、日本に与えられている島国としての利点をフルに生かし、外国との交易に生存と発展を託する以外に進む道はないと思うのです。

それが日本の立ち位置とすれば、海洋国家に相応しい国づくり、目標設定をすべきであり、それを可能にするような教育を考えなければなりません。海洋国家とは交易国家であり、開放的な国柄をその

# 英語教育を幼稚園からやる必要はない。まず「日本とは何か」を教えるべき

特徴とします。そのような国となるための教育というと、一般には「国際化教育」の重要性が説かれませんが、問題はその中身です。

## 英語教育の方針に問題あり

国際化のための教育として、必ず主張されるのが英語教育の強化です。国際語となった英語は話せて当たり前の時代ですし、日本人の英語力強化は喫緊の課題です。しかし、早々と幼稚園や小学校低学年から英語教育をやる必要はないと考えます。外国語を学び、外国を見知るということは、結局は自らを知ることです。ところが日本では、「英語を話せればいい」という方に重きを置いています。それは違うのではないかと思うのです。外国を知り、他国と深く交わることは、己の視野を広め、さらに交易を促すことにも益するでしょうが、その究極の意義は自分自身を見つめることであり、突き詰めて言えば日本人の「アイデンティティ」

を探すためなのです。海外に留学した日本人が日本のことを聞かれて何も答えられず、底の浅さを露呈するという話をよく聞きます。恥ずかしい限りです。

まず小学生ぐらいまでに、「日本とは何か」を少しずつでもよいから教える。本もいいでしょうが、親ができるだけ子供を国内旅行に連れていって実物大の日本を見せることが大事だと思います。細かいことは分からないかもしれない。それでも北海道はこんな所だ、沖縄はこんな地だというように、子供なりに肌で掴めるところまで日本のことを教えるのです。

子供の頃に体験した富士登山は記憶に強く残ります。日本というものを子供心に意識する。そして自我が生まれた頃に様々なことを教えていく。どんどん詰め込んで構わないと思います。詰め込まないと判断する材料を持つことができませぬ。吉田松陰は六歳頃には四書五経や兵書を丸暗記していた。それが咀嚼され青年期に彼の血となり肉となったからこそ、日本の

将来を考えられる人材に育ったわけです。「詰め込み反対」という人がいますが、私は「詰め込み反対」にこそ反対します。

問題は詰め込み暗記ではなく、「詰め込み暗記」で終わってしまうことにあるのです。詰め込まれた人々の叡智を礎とし、そこから先は自分で考えさせる教育、研究を行う。それが大学等高等研究機関の使命です。暗記は無駄と言いますが、暗記したものを真に使おうとしないことが問題なのです。

## 必要なのは日本と外国を比べる視点

さて、小学校も高学年となれば、国の外にも目を向けさせる。例えば富士山とピナツポ火山やハワイのキラウエア火山を見比べさせればよい。そこで比較の目が芽生えるのです。幼くても日本と外国を比べる視点が身につくから英語を教えても、決して遅くはない。そしてなるべく青年期の早い段階で海外に出てみる。海外に出る

# 外と触れ合って比較する 機会がないと真のアイデ ンティティは生まれない

と、学校では習わなかったけれど日本には他国に無いこんな良い点がある。あるいは私たち日本人が常識だと思っていたことが、決してそうではなかったことも分かる。こうした体験のうえで、バイリンガルの素養を活かしつつ自分が惹かれた分野に取り組んでいけばよいわけです。英語教育といっても、自分の母国さえ意識できないいうから焦って教える必要はありません。

また、英語を話すといっても、何もネイティブのように流暢に話さなければいけないというものでもない。ただし、自分の言うべきことを英語できちんと伝えられるようになることは大切です。そして相手を説得する語法を学ぶ。それができれば、何も立て板に水の英語力がなくてもいいと、私は思います。英米の植民地であった国々にはとてつもなく英語のうまい人が掃いて捨てるほどいます。しかし英語使用が多いのは母国語を奪われた裏返しでもあるわけで、古より独立国家としての輝かしい歴

史を誇る日本の国民がそうした国と同じである必要はないのです。問題は英語力というよりも、日本人が「外に向けて発信をしない」ことです。ほんの一例ですが、CNNの東京特派員はアジアの別の国の人で、日本人ではありません。これで一体どこが国際国家なのか。CNN東京発のニュースを見るたびに私は悲しくなっています。

## まずは「言うたい」 ことを持つ

まずは「言うたい」ことを持つ。何を聞いても「意見ありません」「知りません」では、自分というものがなさすぎる。自分というものが無いから、日本に対する認識もない。自分が無い者が国の多くを成しているから、日本はどういう国かという議論も深まらないということでしょう。

外と触れ合って、自分とは違うものに触れ比較できてこそ、初めて自分を意識することもできるわ

けです。異質なものと比較する機会がないと真のアイデンティティなど生まれません。比較を抜きにアイデンティティを持つとしたのが戦前の失敗だと思っています。排他的になったり、ただ日本民族は優れているという論調に流され、自己暗示に陥ってしまったのです。日本は意識して海外と触れ合う機会を作っていけないと、ついつい閉じこもって外に出ようとしない癖があります。それを打ち破らねばなりません。

## 日本が国として脆い理由

では将来、欧米や他の国々とも対等に渡り合える人材が育ち、日本が国際的に開かれた海洋国家になったとします。しかし、それでもまだ歴史に名を刻んだかつてのベニス、オランダ、イギリス等と比べると、この国はなお脆いと思うのです。なぜなら、日本人が抱えている精神や内面の問題が解決されていないからです。分かりやすく言えば「宗教がない」ことへ



# 国際貢献のような意識に乏しいのは「宗教心」より「自己愛」が勝つからではないか

の危惧です。

宗教心はその国のあり様を大きく左右すると思うのです。日本には、諸外国と同じ意味での宗教はありません。例えばサン・ピエトロ大聖堂やカンタベリー大聖堂に行っても、合格祈願や良縁のお守りは売っていません。その手のお札を見かけるのは日本だけです。一言で言えば、極めて現世利益で、お金が儲かるとか、何か役に立つのが日本人にとつての「宗教」なのです。神仏に対する、ある意味の「甘さ」「馴れ合い」があるのではないのでしょうか。

それも立派な宗教だと言う人もいますが、例えばボランティアとか、貧困に苦しむ人に尽くそうとか、あるいは他国の人を助けようといった精神が、そうした「日本的宗教」から生まれてくるかと言えば、私には疑問です。己の世俗的利益獲得のためのお守りばかりを欲する民族が、他の民族や国際社会のために身の危険を賭しても貢献、奉仕できるかどうかです。

国を超えて、日本人という枠を

乗り越えて行動しようという意識に乏しい原因は、宗教心が負けて自己愛が勝つという構図になるからでしょう。その様な意識でなまじ海外に出て行ったら、貢献の押しつけや自己満足の国際援助となり、相手国の人々と摩擦も起こりかねない。自分を犠牲にしても他の人を助けるといふのは、ナシヨナリズムではなく、インターナシヨナリズムや普遍的な愛です。そのようなものが今の日本人の心に残りたしてあるのでしょうか。

## 「一身独立して一國独立す」

国の力、国力というのは最後は人材、人間の力です。その人間の最も重要な部分が精神や内面の問題です。しかしこの国では、宗教心だけでなく、民族精神も先の敗戦で穴が開いたまま崩壊状態がいまも続いています。苦難に耐える強靱な精神力や、場の雰囲気は流されず、あるいは周囲の反対を押しつけても自分の初志を貫くだけの強さを発揮できるのは、宗教心や個

我的あり方にかかっていると思います。これがこの国民には決定的に欠けている。だから私は、残念ながら今のままでは日本が本当の意味の国際大国になるのは無理だと思っています。開かれた国家・国民になる。それにとどまらず、一人の人間としての精神や内面の充溢が日本人には欲しいものです。「一身独立して一國独立す」という福沢の言葉を思い起こすべきでしょう。

最後に、海洋交易国家たる日本は、世界に開かれた多民族国家の国とこそ深く交わるべきです。世界に広く門戸を開く自由と民主主義の国といえはアメリカやイギリスがその筆頭でしょうが、こうした国と緊密な外交関係を維持する重要性も、きちんと教育してほしいと思います。

わが国家・民族に誇りを抱きつつも、「日本・日本人とは何か」を常に自問し、広大な世界にその視野と好奇心の翼を広げてくれる若い世代を育てることが、真の人材教育だと思っています。■

## 家族を大切に オランダ人

オランダのユトレヒトにあるビジネススクールで学位を取得し、現在、ロンドン在住の鈴木さん（二十九）は、オランダ人の家族へのこだわりにも、今でも強い印象が残っていると話す。個人主義といわれるヨーロッパ人の中で、オランダ人の家族を大切にしている国民性は注目に値する。

そのため、オランダは他のヨーロッパ諸国と異なり、家庭生活に重点を置いた雇用制度を導入し、成功を収めている。七〇年代に天然ガスで経済が潤い、手厚い社会保障を国民に提供していたオランダは、天然ガスの価格下落が起きた一九八〇年を境に、深刻な財政危機に見舞われ、そこで導入されたのがパートタイム雇用制度だった。オランダは先進国の中で、最も早くワークシェアリングを取り入れ、成功した国といわれる。政府、経営者団体、労働組合は一九八三

### ワールド・アフェアーズ

# 「幸福の原点は家庭」 家族を守る オランダモデル

個人主義と言われるヨーロッパの中で、家族を大切にしている国民性を持つオランダ。家族重視の雇用制度を導入し、世界的金融危機の中でも国を守った「オランダモデル」が注目されている。

在仏ジャーナリスト 辰本雅哉

年、いわゆるワッセナー合意を結び、労働組合の賃金抑制への協力、経営者側は雇用の維持と就労時間の短縮に努力すること、政府は減税と財政支出の抑制を図り、企業投資で雇用創出を行うことの道が開けた。

結果として、一人ひとりの労働時間は短くなったものの、パートを好む女性たちも気軽に仕事ができるようになった。政府は企業を指導し、正社員に対してパートを差別しないことを社会保障面からも制度化し、フレックスタイムな

どの導入もあり、労働時間を夫婦で調整しながら、働く環境が整備された。

不況から脱し、再生に成功したオランダでは、国民の過半数が人生の中心を「仕事よりも幸せな家庭生活を送ること」に置いている。オランダ留学していた鈴木さんは、企業研修で三社に勤務したが、「どこでも話は家族のことで盛り上がり、仕事を早々と切り上げて、そそくさと家に戻る姿が印象的だった」と振り返る。

「印象だけですが、ロンドンの職場では、それほど家族の話は聞かれません。オランダでは、子供の話などが日常的に聞かれました」と鈴木さんは言う。オランダはヨーロッパで最も自由な国といわれ、個人の権利が重んじられる国としても知られるが、その家族政策は、国民の大多数の要求を如実に反映しているものでもある。

社会保障の進んだオランダは、他の欧州大国同様、国が社会保障に全面的責務を負い、民間企業は被雇用者本人の労働に対する対価を

支払うという棲み分けがされている。国は企業の活性化のために投資し、雇用促進を後押しする一方、国民生活全般において、さまざまな支援も行っている。

## 仕事と家庭の両立が容易に

パートタイムで働く社員の待遇を改善したオランダでは、正社員とパートタイムで、仕事内容に違いがなければ、賃金は均一とされている。当然、出産・産児休暇を含む各種の社会保障においても、正社員とパートは同等に扱われる。さらにフルタイムで働く人が家庭の事情などでパートタイムに自由に切り換える権利も与えられている。その結果、最も利益を得たのは、出産や育児などで働けない期間の多い女性たちだった。勤務形態を自由に変えられるために、家族の事情に合わせた調整が容易にできるようにになった。一般的に多様な勤務形態を導入しながら、充実した社会保障を行うことは困難とい



われているだけに、オランダの事例は、オランダモデルとして注目されている。

専門家は、オランダでの成功の背景には、同国が小国であり、教育レベルが平均的に高く、国民の大多数が家族を大事にするという価値観を共有していることをあげている。夫か妻のどちらかが家において育児を行えるため、ベビーシッターなどの費用が節約できる。貿易会社で働くヤンさんは、最近まで週の半分を休んでいた。五歳になる子供がインフルエンザで四週間自宅療養していたからだ。仕事をしている妻と入れ代わりに家

で看病ができた。今はフルタイムに戻したヤンさんだが、今後も家族の事情でパートに切り換える可能性はあるという。

無論、マイナス面もないわけではない。パートが増えれば愛社精神が薄れるとか、仕事の熟練者が育ちにくいという面もある。高学歴者ほど転職も多く、会社への定着率は高いとはいえない。だが、オランダ人は勤勉で質素節約が伝統的に身につけており、効率的に短時間働き、生産性を上げること努力する人は多いといわれている。

## 夫婦二人で 一・五人分働く

パートタイム就労は、幅広い職種で定着している。普通のサラリーマンのみならず、医者や弁護士、学校の校長や大学の研究者など、高度な専門職にまで広がっている。オランダでは、夫婦二人で一・五人分を働き、〇・五人分は他の人に譲り、その時間を家族のための時間にあてているといわれている。

ヤンさんは言う。「ただ、最近では移民が増え、彼らはパートで一日、二社、三社を掛け持ちで働く人もいる。これでは、国が掲げた家族を大切にしながら、雇用を増やす政策に逆行することになる」。移民への反発が強まっている理由の一つでもあるという。

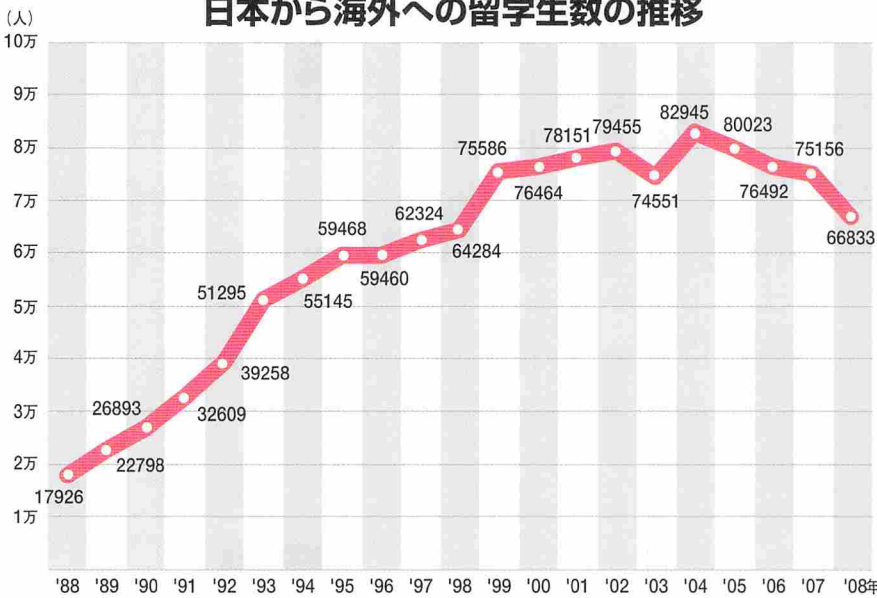
無論、オランダも他のヨーロッパ諸国同様、離婚も少なくない。ただ、幸福の原点を家庭に置き、国全体がそこに取り組んでいる姿は注目に値する。オランダは、リーマンショック以降も欧州連合内では低い失業率を保っている。製造業や金融業に依存しない経済体質も金融危機から国を守っているからだ。

国際競争力が求められるグローバル化の時代、企業にとって雇用は重要な柱だ。オランダでは、医療や介護、教育などの公共福祉サービス部門での安定した雇用が確保されていることも、パートタイム雇用制度を支えている特徴といえる。

文科省「日本人の海外留学者数」

減少続く日本人の海外留学

08年は11%減の6万6800人



文科省「日本人の海外留学者数について」(OECD「Education at a Glance」、ユネスコ文化統計年鑑ほかを集計)

文科科学省が昨年末に発表した

「日本人の海外留学者数」によると、二〇〇八年に海外に留学した日本人は六万六千八百三十三人で、前年に比べて一気に八千三百人余り(一一・二%)減少した。二〇〇〇年以降では最も少ない。減少の原因として学生の内向き志向、経費の問題や国内の景気、語学力不足、海外生活への不安、さらには帰国後の就職への不安などが指摘されている。

調査は、経済協力開発機構(OECD)やユネスコの統計を集計した。

日本から海外への留学生は、八〇年代の一人台から増え続け、二〇〇四年には最多の八万二千九百四十五人に達した。しかし、その後は減少を続け、今回は九〇年代後半の水準に落ちた。

留学先で最も多いのは米国で二万九千二百六十四人だが、前年より一三・九%減少。次いで中国が一万六千七百三十三人(前年比一〇・二%減)、三位が英国で四万四千六百五十五人(同二一・七%減)となっている。

他の調査(米国際教育研究所(IEIE)実施)でも、二〇〇九年度の米国内の留學生数は、最も多い中国が三割近く増えて十二万七千人余りだったが、日本は一五%減って二万四千八百二十四人にとどまり、順位も前年の五位から六位に下がった。ピークだった九七年の四万七千人から半減したことになる。

一方、日本学生支援機構の調査によると、日本で学ぶ外国人留學生は、昨年五月の時点で過去最多の十四万七千七百七十四人(同六・八%増)となっている。国別では、中国が最も多く八万六千七百七十三人(同九・〇%増)、次いで韓国が二万二百二人(同三・〇%増)だった。



## 全国体力テスト8種目合計点の上位・下位都道府県

(80点満点)

■ 小5 男子	■ 小5 女子	■ 中2 男子	■ 中2 女子
1. 福井 (58.30)	1. 福井 (59.96)	1. 福井 (45.94)	1. 福井 (52.99)
2. 秋田 (57.21)	2. 秋田 (58.93)	2. 秋田 (45.65)	2. 茨城 (52.17)
3. 新潟 (56.55)	3. 茨城 (58.46)	3. 千葉 (45.08)	3. 千葉 (52.16)
4. 千葉 (56.54)	4. 新潟 (57.71)	4. 新潟 (45.02)	4. 静岡 (51.37)
5. 茨城 (56.43)	5. 千葉 (57.32)	5. 茨城 (44.52)	5. 埼玉 (51.28)
⋮	⋮	⋮	⋮
43. 群馬 (52.77)	43. 福岡 (52.92)	43. 奈良 (39.37)	43. 徳島 (45.67)
44. 神奈川 (52.67)	44. 滋賀 (52.56)	44. 和歌山 (39.25)	44. 大阪 (45.41)
45. 奈良 (52.48)	45. 奈良 (52.51)	45. 北海道 (39.20)	45. 大分 (45.36)
46. 大阪 (52.42)	46. 神奈川 (52.44)	46. 東京 (38.66)	46. 福岡 (44.87)
47. 徳島 (52.15)	47. 大阪 (52.43)	47. 大阪 (38.38)	47. 北海道 (43.44)

文部科学省「平成22年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」

# 文科省「全国体力テスト」 学力と体力に相関関係 学力トップの福井、秋田が上位を独占

文部科学省は平成二十二年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」(全国体力テスト)を公表した。全国の小五児童と中三生徒、約四十二万人を対象に五十メートル走、ソフトボールなど実技八種目で実施。体力水準は前年度とほぼ変わらず、都道府県別では、小五男女とも学力トップクラスの福井が三年連続一位となるなど、学力と体力の相関関係を示す結果となった。同調査は今年三回目。小五男子の五十メートル走の全国平均は九・三八秒、ソフトボール投げは二五・二六メートル。小五女子は九・六五秒、一四・五八メートル。中二男子は八・〇四秒、ハンドボール二一・二三メートル、中二女子は八・九〇秒、二三・二九メートル。昭和六十年度の体力水準と比べると、握力、五十メートル走、ソフ

トボール投げいずれも低い水準のままで。

都道府県別では小五男女、中二男女ともに福井が一位。二位は小五男女と中二男子で秋田、中二女子は茨城。福井と秋田は全国学力テストもトップクラスの文武両道県。体力テストでも常連県が上位を占めた。また最下位は小五女子と中二男子が大阪。小五男子は徳島、中二女子は北海道となった。

一週間の総運動時間をみると、六十分未満は小五男子が一〇・五%、小五女子は二四・二%。中二男子は九・三%、中二女子では三一・一%。女子は運動をほとんどしていない割合が高く、運動部や地域スポーツクラブに所属している子供としていない子供では、運動時間の開きが大きかった。

また家庭で運動やスポーツを「する」「見る」「話す」頻度の高い子供は「運動が好き」という割合が高く、体力も高い傾向にあった。学力同様に体力も、家庭の生活習慣や地域との関わり方が影響していることを示す結果となった。

# 円満な夫婦関係が 幸福の基盤

誰もが夫婦仲良く円満にと願っても、現実には離婚が増加している。夫婦において守るべきルールは一つ、それは「愛において裏切らない」こと。社会学者の白岩士人氏に投稿してもらった。

ドイツの偉大な詩人であり哲学者であったゲーテの言葉に、「結婚は一切の文化の始めであり、頂上でもある」という一文があります。

言うまでもありませんが、結婚は新しい夫婦の始まりであり、それは新しい家族の出発でもあります。

夫婦は、唯一無二の個性と個性との出会いによる、他の何ものにも代え難い固有の価値をもった尊い存在であり、誰しもが夫婦仲良く円満に、末長く幸福に暮らしたいと願っています。

しかし、現実はその甘くはなく、マンネリ化、態度が冷たい、会話がない、仮面夫婦、性格の不一致、

価値観の違い、ギャンブル癖、浪費癖、ドメスティック・バイオレンス、セックスレス、浮気・不倫、離婚に至るまで、さまざまな夫婦の問題が相談コーナーに持ち込まれています。わが国の離婚率は近年急激の上昇傾向を示し、二〇〇〇年には二十六万件を超えています。

夫婦のあり方は個性的で多様性があり、画一的には断言することができませんが、ここで望ましい家族関係を形成する中核となると考えられる夫婦のあり方の原則的部分に関して、一緒に考えてみましょう。

一人の男性と一人の女性が結婚

し、生涯をかけて愛を育み二人で行きつくところが「二人の国」と書く、すなわち「天国」だといわれています。

## 避けたい離婚

「子どもは親の背中を見て育つ」という言葉は名言であり、子どもの前では夫婦喧嘩はしてはならないということは、一般によく知られています。子どもはよい夫婦の姿を見て、「自分もお父さんやお母さんのようになりたい」と考えます。

離婚は夫婦としてのあらゆる理

想を一旦すべて破壊してしまいます。それは夫婦の問題だけではなく、多くは、棚瀬一代著『離婚で壊れる子どもたち』のタイトルに象徴されるように、家族とくに子どもたちのところを大きく傷つけてしまいます。

ですから、願わくば、「私たちの辞書には『離婚』という文字はない」といえるようにしたいものです。

夫婦の問題の解決として、離婚を選択しなくても済むように日ごろからお互いをよく受け止め、理解し合う努力も必要でしょう。

また、なにより離婚に至ることのない結婚をどうしたらできるのか、夫婦の出発はどうあるべきなのかを再度考えてみる必要があるのではないのでしょうか。

夫婦において守るべきルールは一つだけと言っても過言ではありませんが、それは「愛において裏切らない」ということです。それは異性問題を起ささないこと、すなわち、浮気や不倫をしないということです。浮気や不倫は、大切な

夫婦の愛に致命的な打撃を与えます。離婚の最大の元凶といってもよいと思います。

### 介護の現場から

私は介護問題を調査する中で、次のような事例に出会いました。

〔事例一〕若いころ、遊び人だった夫への妻の反発が、要介護者となった夫への虐待の引き金になっている。

〔事例二〕愛人のところで倒れて失語症で寝たきりになった夫に対して、食事として一日二回菓子パンを与えるだけで、声もかけない妻

に出会ったことがある。

介護において、夫の八割は妻に見てほしいと思っています。老々介護の増えている今日、夫婦関係の歴史性は重要です。とくに、「男にとつての一番の介護保険は、妻を生涯大事にして暮らすことである」とも言えましょう。

夫婦の関係の在り方によっては、男性が要介護者となったときに、妻が出してくれる食事が、「鯛のお刺身付き」の食事となるか、「一日菓子パン二回」の食事となるかの差が出ますよというわけです。

夫婦間の愛情は結婚式の時からピークで、あとは時間とともに減衰し

ていくと考える人々も少なくありません。そうではありません。本来の望ましい夫婦の姿は、お互いに相手の中にあるすばらしいところを新しく見いだす努力を続けることだと思えます。

### 夫婦の愛を育むこと

夫婦は運命共同体であり、お互いが一番の理解者であることをいつも態度で具体的に示しましょう。中高年になっても、ときには花やプレゼントを贈り合うのもよいでしょう。お互いが大切な存在であること、いつも感謝していること

など、自分の気持ちを具体的な言葉にして伝えましょう。

家を出かけるとき、二人が離れ離れになるときなどには、ギューと抱きしめてあげましょう。外で、二人で歩くときは、手をつないでみましょう。就寝時にも、たまには手をつないでみましょう。恥ずかしがらずに・・・。

結婚して五年、十年、二十年経っても、三十年、四十年経っても、相手の配慮を失わず、会って顔を見たらお互いがうれしく思える心情関係を培い、愛を育てていくことが大切なのではないでしょうか。

これからは「個性重視」から「人格重視」の教育へ

# 人格教育のすすめ

## アメリカ・教育改革の新しい潮流

人格教育に関する文献で、これほど深遠で包括的な書物は存在しない。教師や親、青少年問題担当者あるいは政策立案者など、人格教育に携わる人々はもちろん、より良い人生を築きたいと願っているすべての人々に、価値ある本となることを信じてやまない。

（まえがき）より／トーマス・ローナ 米国人格教育の第一人者

Cultivating Heart and Character

#### 主な内容

- Part I 高まる人格教育への期待
- Part II 家庭は「愛の学校」
- Part III 青少年が直面する性の脅威

四六版上製・五三三頁 定価二〇〇〇円（税別）

トニー・デイバイン 他編  
上寺久雄 監訳  
元兵庫教育大学学長

発行／コスモトゥーワン

東京都豊島区西池袋2-39-6-8F  
TEL 03 (3988) 3911/FAX 03 (3988) 7062  
<http://www.cos21.com>

# 政局が悪くする アフリカの人権状況

アフリカ諸国では、選挙結果をめぐる争いが続き、国民は社会不安と暴行に曝されている。まさに政治の貧困が国民への人権侵害をつくりだしているわけだ。

UPI通信社東京支局長 山崎博

## 選挙結果をめぐる混乱

最近、東アフリカのケニアに初めて行く機会があった。一度でも足を向けた国や街の話題が俄然身近になるのは、読者の皆さんも経験がおありのことと思う。そんなわけで今回は、アフリカの人権問題の一端に触れてみたい。

目下、新聞に頻出するアフリカ報道は、西アフリカのコートジボワールの政治危機に関するものだ。同国は「奇跡」と呼ばれる経済成長を成し遂げたが、二〇〇二年から続いた内戦状態で疲弊してきた。事態を打開するべく大統領選挙が実施され、第一回投票で決着が付かなかったため、十一月末に、再選を目指す大統領と、最高権力を目指す首相との決選投票が行われ

た。選挙管理委員会は首相の当選を発表したのだが、大統領側が敗北を受諾するどころか、憲法評議会は大統領の当選を裁定してしまった。大統領は就任式を強行し、内閣を組織し、それに従わない首相派の支持者達を強権で抑えつけるという挙に出ている。

本稿は情勢分析が主旨ではないので、これ以上は割愛するが、国連人権理事会は、コートジボワールの政治危機に伴う人権状況の悪化に懸念を表明。それによれば、この間の暴力行為で、百七十人以上が死亡したという。本稿執筆の時点で、国連、欧州連合、アフリカ連合などが首相の当選を承認し、なりふり構わず権力執着に走る大統領に身を引くよう求め、硬軟両様の圧力をかけているところだ。アフリカに関心のある方なら、「あ

あ、またか！」と感じるはずだ。大半のアフリカの国々は、一九六〇年前後に西欧の旧宗主国から独立した後、西欧流の民主システムを模倣した。大統領も国民投票による選挙というシステムを導入したものの、当事者達の意識の民主化が遅れているせいか、選挙結果をめぐる「場外乱闘」が後を絶たないからだ。

## 政治の貧困が作る 人権侵害

十一月に訪れたケニアは、長年、アフリカ安定の象徴と見られていたが、この国も例外ではなかった。わずか三年前、大統領選挙の結果をめぐる内戦状態に発展し、約千五百人の市民が命を失い、三十万人近くが、隣のタンザニアやウガンダに避難を余儀なくされた。この事態は内外に衝撃を与えたが、国連やアフリカ連合の調停もあり、アフリカ初の与野党連立が実現し、まがりなりに政局の安定を演出した。しかし部族間の葛藤までも巻き



込んだ騒乱の影は、今も国を覆っている。内戦・国家分裂の危機を反省し、昨年夏に新憲法が發布され、大統領を含む権力者の横暴を許さない法的措置が明記された。目下、その実施策をめぐって国会が熱心に議論している。その一方、二〇一二年に予定される総選挙をにらんだ政局は、ともすると、内戦状態を招いた責任の糾弾になり、それにマスコミが乗って古傷を暴いたり、部族感情を刺激する応酬がなされるテレビ番組が続いていた。

ところでケニアの事態が一段落した後も、南部アフリカのジンバブエで大統領選後に混乱が起き、ケニアに倣うように、「当選」を主張する大統領と野党指導者が連立を作って内戦を回避した。しかし双方の確執はいまだ根深く、政局は停滞と混乱を繰り返している。この間、類似の状況がギニア、ニジェール、マダガスカル、モリタニア等でも発生し、そのたびに国民は、社会不安と暴力の横行に曝されている。正に政治の貧困が作り出す人権侵害と言う他はない。

アフリカの大半の国は、国連が算定する「人間の安全保障指数」で最下層に位置する。二〇〇〇年九月の国連ミレニアム・サミットが、二〇一五年までの貧困克服の努力目標とした「ミレニアム開発目標(MDG)」を、最も達成不能と見られているのがアフリカ大陸だ。経済・社会面で人権・人命が損なわれる状況を打開すべき政治家達に、むしろ状況を悪化させている。

もちろん中にはガーナのように、民主的手続き、つまり投票結果のみに則った政権交代が平和裏に実施されてきた模範的ケースも複数ある。しかしアフリカの為政者には、自分が主宰した選挙で、別の人間に権力を手渡すのは愚の骨頂、といった、おおよそ民主主義とは懸け離れた考えを持ち続ける人が少なくないようだ。

## アフリカの「王」の権威

どうしてそうなのか。今回の旅行で、アフリカの特徴と思われる事柄を知った。ケニアを含めて、ア

フリカの多くの国では今でも、地域をまとめる長老格で、世襲の権威が存在する。通称「王」と呼ばれる彼らは、もちろん世俗の権力は持たないが、長い間の伝統に由来する威光から、例えば「王」が取り仕切る行事には、大統領も同席することが珍しくないという。

彼らの権威は、地域独特の神話や伝説で色づけられ、植民地化される前に存在した地域王国の支配者達の血筋を引くことに由来する。こうした社会文化が、世俗の権力者にも適用されて、権力の長期化をもたらす傾向があるらしい。

アフリカの旧宗主国だった西欧では、王権神授説に根拠をおいた絶対王政が革命によって否定され、代わって、自然権としての人権や、社会契約として民主的権利が認められてきた。その過程で多くの犠牲と時間が必要だったことを想起すれば、独立して半世紀しか経っていない多くのアフリカ諸国で起きている現象は不可避なものなのかもしれない。■

(終わり)

# 「生きる目標」と「仲間意識」を失った無縁社会

「昭和」という時代、「生きていく目標」と「仲間意識」があった。今はそれが失われ、個人の自主性だけが独り歩きして行き着いたのが無縁社会だった。

## 昭和で思い出す 「爽やかさ」

まだ正月気分が残っていた一九八九年一月七日、昭和天皇が逝去された。前年の暮れからご不倒は伝えられていたものの、突然の訃報に国民は大きな衝撃を受けた。そして、その時から国内に静かな沈黙の時代が流れた。

そこには国民の天皇の死を悼む気持ちや、何故かそれが素直に社会の前面には出てこなかった。そこに天皇が在位された昭和という激動の時代が去り行くことへの、国民の複雑な

思いが秘められていたからである。

戦地で散華した兵士の遺族や、空襲で家を焼け出され家族が離散してしまつた人々など、夫々に天皇の死を、激しく厳しかった時代の自らの人生に重ね合わせていた。

私も少年時代に見た愛馬「白雪」に騎乗されていた天皇の勇姿を思い出したし、戦後は特に終戦の玉音放送を聴いた時の衝撃的な思い出——「堪え難きを堪え、忍び難きを忍び、もつて万世のために太平を開かん」とのお言葉が今も胸中に蘇ってくる。

このように、昭和生まれの世代にとっては、昭和天皇は国民と共に昭和という苦難の時代を歩まれ

た方なのである。

当時、小学生だった私は、登下校時には門前の奉安殿（天皇・皇后両陛下の御真影が安置されていた）に拝礼し、学校の祝祭日の行事には御真影が中央に安置されていて、教職員、生徒全員で一斉に拝礼することになっていた。

小学生の私には、先生が説くように御真影の人物が神か人間なのか、将又当時言われたように現人神なのかはよく判らなかつたが、まわりの雰囲気から特別に偉い人を仰ぎ見ているという気がして、自ら身が引き締まるのを覚えた。そして、子供ながらも小国民の使命のようなものを感じて緊張したも

のであった。今から回顧して、そういう国家主義的な雰囲気には問題も感ずるが、気持ちの緊張した日々が続いたこと自体は、最近のだから暮らしたと比べて良かったと思う。私が昭和について思い出すのは、そうした一種の爽やかさである。

その爽やかさは、どこから来たのだろうか？ 今になって考えてみると、一つは生きていく目標がはっきりしていたことと、二つに

## 鈴木博雄

すずき・ひろお

筑波大学名誉教授

1929年大阪府生まれ。東京教育大学大学院博士課程修了。横浜国立大学、東京教育大学講師、筑波大学教授、常磐大学教授等を歴任。この間、筑波大学附属小学校長も務めた。日本獣医学会研究委員長。教育学博士。著書に『原点近代教育史』『日本教育史研究』『母親は何ができるか』『父親は息子に何を伝えられるか』他。親が知りたい子どもの心と思考の育て方。



はその目標が昏の目標であったから、皆の間に仲間意識があったことが挙げられる。

## 中心になる信仰や 思想が見えたらいい

戦後になってから、この国民的な仲間意識が国家主義的と批判されて、国民個々の自主性が強調された。そのことは決して誤りではなかったが、七〇年代以後になる



今の日本にはまとまりの中心になる信仰や思想が見えたらいい

と個人の自主性だけが独り歩きをして、社会や国との関係から途切れた利己的な個人主義がはびこるようになってしまった。その結果、国や社会の進むべき道やあるべき姿は見失われ、人と人とのつながりも希薄になって、無縁社会と呼ばれるようなバラバラの社会になってしまったのである。

欧米の社会はキリスト教の神という点で一つになれるものがあるが、今日の日本にはそうしたままとまりの中心になる信仰や思想が見当たらないところに、根本的な問題がある。

## 日本の経営を生かせ

人間は理屈だけでは一つに出来ないのであって、それと共に感情的な融和が是非とも必要となる。特に日本人は昔から豊かな自然に囲まれて、周りの人々との感情的な融和を大切にしてきた民族である。それが近代化、資本主義の導入というところで合理的な社会制度が取り入れられ、フェアな競争が社会

進歩の源と考えられるようになってきた。これは明らかに欧米的な考え方に基づくもので、日本古来の融和的な生き方とは異なる。

そこで日本の伝統を残しつつ、欧米的な競争社会となった現代を生きるためには、七〇年代頃より企業経営の面で「日本の経営」という言葉がよく使われたことがあった。折しも高度成長の最中であつたために、日本の経営の意味・内容を深く極めることなく使われてきたが、九〇年代に入ってからバブル崩壊と共に、日本の経営という言葉もいつの間にか消え去ってしまった。

しかし、こうした困難な状況を日本流に乗り切っていくために、日本の経営が乗り出すべき時なのである。日本人は困難に出会うと、すぐに右顧左眊の態度をとるが、そうした悪習を克服して日本流のやり方で、この世界的不況を打開していきたいものである。それでこそ、日本の存在意味が世界に示されるのである。E

本書は、多くの人々の目を覚まさせるに違いない！  
しかし本書は、ある種の人々を間違いなく不快にさせるだろう…

## ダーウィニズム150年の偽装

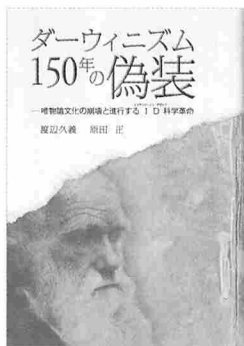
——唯物論文化の崩壊と進行するID科学革命

なぜ唯物論という「いびつな哲学」が社会を支配してきたのか。ここに、鮮やかな謎解きの旅が始まる。

渡辺久義／原田正 著  
A 5版／324ページ／ハード  
カバー上製本／2500円＋税

ご注文は書店へ お急ぎの方は下記までご連絡ください

アートヴィレッジ <http://art-v.jp>  
受注センター：〒657-0846 神戸市灘区岩屋北町3-18  
TEL.078-882-9305 FAX.078-801-0006



# 子育ては＊絵本で＊大丈夫

＊6



浜島代志子  
劇団天童／  
天童芸術学校代表

善いことをすれば善いことが  
起き悪いことをすれば悪いこ  
とが起きる  
「花咲爺」

「積善の家に福来たる」というこ  
とわざをご存じですね。山形県に  
公演に行ったとき、手打ち蕎麦屋  
の床の間にかけてありました。「良  
いですねえ、すごいですねえ」と  
私。蕎麦打ち名手のおばあちゃん、  
「当たり前のことじゃ。昔はこの  
家にも懸かっておった」、何を今更  
という風情でありました。

日本昔話花咲爺、まさにそのと  
おりです。良いおじいさん夫婦と  
悪いおじいさん夫婦が対照的に登  
場しますが、このような昔話を隣  
の爺型と言うそうです。



「花咲爺」 齋崎英朋著（新・講  
談社の絵本）

良いおじいさんは、やせた白い  
犬を可哀想に思っつて連れ帰り「し  
ろ」と名付けました。この名前が  
物語を解くヒントなのです。白は、  
神、純粹を表します。神主さんも  
巫女さんも花嫁の白無垢も白、信  
仰の対象の山、白山も白ですね。  
おじいさんが連れ帰つたやせこけ  
た哀れな白犬は、神のお使いであつ  
たのではないのでしょうか。欲心の  
無いおじいさんには次々と富がも  
たらされ、欲深いさんにしろを  
貸してしまいます。どこまでも心

優しいおじいさんと欲深いさんの  
の違いを画がとても良く表してく  
れています。

聞き入る子ども達は、「じい、  
あっちへ行け！」と怒り、殿様に  
こらしめられる場面では「ほらね、  
罰が当たった」と得意顔。どんな  
お説教よりこどもの心に入つてゆ  
きます。

小学校の道徳の時間（どんどん  
減っているのが心配です）に読み  
語りをし、子ども達に話し合わせ  
ると良いですね。心に響いた内容  
は心に留まります。良い絵本、物  
語をこどもに伝えることは平成の  
「赤い鳥運動」です。父も母も先生  
もリクツより良い絵本や物語を読  
んであげましょう。どこにでもお  
手伝いに行きますよ。■

浜島さんは語り・読み聞かせの実演も行つて  
いますので、同事務所までお問い合わせくだ  
さい。電話&ファックス〇四七・七〇三・七  
九三三、URL <http://gekientendou.com>



# 米映画『トワイライト』 10代の心つかんだ「家族」と「純潔」

米映画『トワイライト・サーガ』シリーズ。その人の背景には十代の女性たちの「伝統的家族」と「純潔」への憧憬がある。

ジャーナリスト 内田宏

## 全米ベストセラーに

日本でも多くのファンを抱える米国映画「トワイライト・サーガ」シリーズ。人間を襲わない吸血鬼男性と人間の少女の純愛を描いた原作小説は、二〇〇五年に刊行されるや、十代を中心に若い女性層が飛びつき、たちまち全米ナンバー1のベストセラーとなった。この熱狂は社会現象ともなり、たちまち映画化。〇八年から立て続けにシリーズ三作が公開された。今年には最終の第四作目が発表される予定だ。

オバマ米大統領の娘二人もぞつ



米映画「トワイライト・サーガ」より  
= Maverick Films/The Kobal Collection

こんだと報道される「トワイライト・サーガ」だが、最初の出版までが困難な状況だった。原作者のステファニー・メイヤーさんが出版先を交渉するエージェン트에第一作目を持ち込んだところ、吸血鬼物としても、純愛物としてもありがちの設定のため「こんなもの

は売れない」とことごとく拒否。ようやく十五人目のエージェン트가出版社に掛け合ってくれ、目の目を見ることになったという。

売れないと思われた小説が十代の少女らの心をつかんでしまったわけだが、その支持の背景には、読者の心の琴線に触れるさまざまな仕掛けがある。そのひとつが自己を投影しやすいヒロインの人物設定であり、もうひとつがどんな状況になってもヒロインを守ろうとする相手役を準備することである。

## 規範にひかれる読者

「トワイライト・サーガ」のヒーローの場合、自己犠牲の上に、「自らの血の欲望」「性の欲望」を抑制し、ヒロインのことを大切に思うがゆえに、越えてはならない一線で踏みとどまろうとする。性描写

に厳しい米国のヤング・アダルト小説ゆえの「しぼり」でもあるが、ヒーローの中世騎士のような規範・価値観に心ひかれる女性読者が多かったことは特筆に値する。

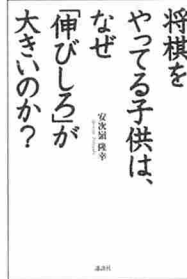
さらに、家庭設定にもひとひねりある。ヒロインの家庭は離婚した父と二人暮らし。母親にはすでにボーイフレンドがいる。一方、ヒーローの吸血鬼家庭は、お互いが寄り添い、支えあっている完璧な「古き良き米国」を象徴するような大家族。実はそれぞれの血はつながっていない。

米国の保守系シンクタンクが発表した統計によると、米国で二親そろって血がながっている親と暮らしている子供は四五%に過ぎない。この小説は、米国が直面する孤独な事情を主人公の「疑似」家族を使って訴えかけようとしているとも受け止められる。

いずれにせよ、「トワイライト・サーガ」が若い女性の中に「伝統的家庭観」「性のモラル」を憧憬する心情があることをあからさまにしたことは間違いないようだ。■

将棋をやっている子供は、なぜ「伸びしろ」が大きいのか？

安次嶺隆幸著／講談社／  
一四七〇円(税込)



将棋は最高の「教育メソッド」

将棋の奥深さや優れた教育力をプロ教師が五十のメソッドに著した。

著者は将棋は最高の教育メソッドだと言う。とくに「礼に始まり、礼に終わる」伝統文化の持つ力に着目する。将棋は「お願いします」の礼で始まり、激しい対局の末に勝負がついた瞬間、敗者自ら負けを宣言する「負けました」の礼、終わると駒を片付け、お互いに「ありがとうございました」の礼で終わる。感銘を受けたのは、「負けました」の礼が持つ教育力について語った

ところだ。将棋少年だったという著者は、悔しい気持ちを折りたたんで、「負けました」と負けを宣言するのは、弱い自分に打ち克つ強さがなければできない行為という。また審判がない将棋では、自己責任で勝負が決まる。最後は勝者と敗者がお互いの読み筋を公開し、検証しあう「感想戦」で対局を終える。小さな子供が一連の「型」を踏むことで、自己を克服する強さや思いやりの心を自然に身につけていくのだという。実体験による学びのすごさに圧倒される。

著者は将棋には日本人が置き忘れてきた精神が凝縮されているという。それは頑張る気持ち、根気強さ、我慢強さ、相手の気持ちを察する思いやりだ。

戦後の教育は日本の伝統文化を隅に追いやったことで、人間形成の力を失ってきた。心の育成が難しい時代、伝統文化の教育力を再評価し活かすという意味で、「最高の教育メソッド」・将棋の魅力を余すところなく伝えてくれた本書の意義は大きい。

「魂の教育」とは何か

人格教育では、子供たちが教師や父母など模範となる人の人格に触れて良い影響を受けることが大切です。また、「人格」の語源には「魂に刻まれたもの」という意味があります。「魂の教育」は人格の核心とも言える魂の無限の可能性に気づき、その魂を強めていくこと、あるいは子供たちが自己の内面の価値に目覚めて人格の形成をなすことだと考えます。例えば、「大自然に大いなるものの存在を感じる」と言いますが、そうした無限の価値、意識のようなものを自分自身の中に見出すことだと言うこともできるでしょう。

■表紙写真 アゼルバイジャン・バクーの夜景  
撮影・大塚克己

春 頌

板硝子工事請負・住宅用アルミサッシ  
湯浅硝子株式会社

専務 湯浅 正子

〒453-0821 名古屋市中村区大宮町三十二六  
TEL052(482)2211  
FAX052(482)2250 (代)

株式会社ゆやま画房

代表 湯山 淳三

〒460-0008 名古屋市中区栄三丁目二五-四一  
エフジ栄三丁目ビル六階  
TEL(052)264-4005(代)

前田 伸治

# 品位あるTV番組を望む

普段はあまりテレビに興味のない人でも、年末年始となると、テレビ番組を見る時間がぐっと増えます。インターネット社会になって、国民のテレビ離れが進んでいると言われますが、テレビを囲んでの一家団欒は日本の幸せな家族の原風景です。

そこで気になるのは、子供から

お年寄りまで家族みんなで楽しめる番組が年々減っていることです。どのチャンネルに切り替えても、画面に登場するのはお笑いタレントばかり。最近は女装タレントが引っ張りだこで、彼らの下品な内輪話は、とても子供たちには聞かせられません。五年ごとに行われているNHK放送文化研究所の調査(二〇一〇年三

月)によると、「欠かせないメディア」を尋ねたところ、若い世代の男性では「インターネット」と「テレビ」が三五%で並びました。その他の世代では、テレビがまだ優位を保っていますが、これからはテレビの必要性を感じない日本人が増えることでしょう。

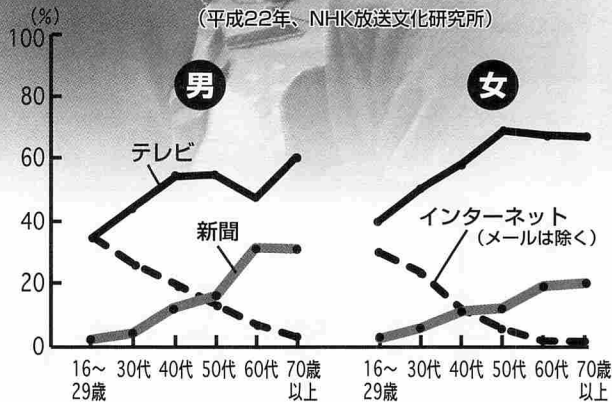
者が視聴率競争ばかりに捉われていて、文化の担い手としての矜持を失っているからでしょう。二〇一一年七月には、アナログ放送が終了し、地上デジタルに完全移行します。ハードは大きく薄く、多機能になっているのに、肝心のコンテンツが低俗化、劣化してはテレビ文化にとっては致命的です。

若者のテレビ離れは、ネットの普及が原因と言われていますが、視聴者が見たいと思う質の高い番組が減っていることも影響しているのではないのでしょうか。テレビ放送開始からもうすぐ六十年。テレビ文化はもっと成熟していいはずなのに、番組の質が低下する一方なのは、番組制作

子供たちはゲームに夢中になり、若者はネットに没頭し、家族の団欒の機会が少なくなっている時代だからこそ、テレビ局には家族みんなが安心して楽しめる品位を保った番組の放送が望まれているのです。TV局、番組制作者の奮起を期待します。

## どうしても欠かせないメディアは？

(平成22年、NHK放送文化研究所)



## 家庭は愛の学校

真の家庭運動推進協議会

The Association for the Promotion of True Families

〒160-0002 東京都新宿区新宿6-13-2 成約ビル4F  
 TEL 03(4557)7760 FAX 03(4557)7761  
 http://www.aptf.gr.jp

毎月第3日曜日は「家庭の日」  
 11月第3日曜日は「家族の日」

「家庭の日」は、社団法人「青少年育成国民会議」が進めてきた「家庭の日」運動に継ぎ、今ではほとんどの自治体が、第3日曜日を「家庭の日」に定めています。さらには政府は十月の第2日曜日を「家庭の日」、その前後、週間は「家庭の週間」として定めました。この日を機会に、家族の強い絆を醸成せよ、それは家族みんなへの愛を押しつけていこう。

●皆様の御意見や気づいたことをお寄せ下さい。教育問題に関して、皆様の身の回りでの様々な出来事や御意見などを真の家庭運動推進協議会本部までお寄せ下さい。お寄せいただいたものを参考にしながら、皆様と共によりよい教育環境や家庭づくりに取り組みたいと考えています。





第3種郵便物認可  
2011年2月10日発行  
毎月10日発行・通巻249号

# 新島襄「自責の杖」で示した教育者の心

歴史と  
伝統の  
探訪



(左上より時計回りに) 新島の言葉「良心之全身ニ充滿シタル丈夫ノ起リ来ラン事ヲ」が刻まれた良心碑。同志社大学構内のクラーク記念館。チャペル(共に重要文化財)。旧新島邸(京都市指定有形文化財)

同志社大学の前身、同志社英学校の創立者である新島襄(一八四三〜一八九〇)は、「明治六大教育家」に数えられる人物だ。

上州安中藩で生まれた新島は、藩士の時にアメリカの制度に触れ、またアメリカ人宣教師が漢訳した聖書に出会って、当時は禁止されていた海外渡航を実行する。

アメリカでキリスト教の洗礼を受け、アマースト大学を卒業。同志社大学チャペルに掲げられた新島の肖像は、太平洋戦争中も外されることはなかったという。

その後、岩倉遣欧使節団に加わり、ヨーロッパ各国の視察に随行。文部理事官だった田中不二麿の助手として教育制度を調査した。後にまとめられた全十五巻の報告書『理事功程』(一八七七年)は、アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、オランダなど九カ国の教育

制度を紹介し、日本の教育制度確立に大きな影響を与えた。

一八七五年に同志社英学校創設。

その校長時代の有名な逸話が「自責の杖」事件だ。ある時、教師会が二年生の上級、下級のクラスを合併しようとしたことに上級の生徒が反発。集団欠席するという騒ぎになった。校則違反の処分に学校側も頭を抱えたが、新島はある朝、騒ぎの全責任は校長である自分にあるとして、自らを罰するため杖で左の掌を打ちつけた。教育者であると同時にキリスト者であった新島の姿勢が表れている逸話だ。

一方で、幼少期から風揚げが大好きだった新島は、校長になってからも風揚げがしたくてたまらず、人にもつからないよう自邸二階の縁側から風を上げていたという。新島のユーモア、温かい人柄が垣間見える知られざるエピソードだ。目

2011

2

no.249

En-ichi

●発行所  
NCU-NEWS  
(東西南北統一運動国民連合)  
代表 河部利夫

〒160-0022  
東京都新宿区新宿5-13-2  
成約ビル2F  
TEL.03(5362)0631  
FAX.03(3354)5017  
E-mail news@en-ichi.org  
URL http://www.en-ichi.org

●発行人 渡辺久義  
京都大学名誉教授

定価 400円  
[1年間5000円(送料込み)]  
郵便振替番号  
00160-3-667291

●本誌に対するご意見、ご感想をお寄せください。  
●定期購読のお申し込みは、電話またはEメールでどうぞ。